令和３年７月２０日　第５号

ふれあい　ひびきあい　学び合い
かがやくたけのこキッズ

えだわんだより

横浜市立荏田東第一小学校
◆〒224-0006　横浜市都筑区荏田東三丁目５番１号
◆Tel…045-941-7630　Fax…045-942-9464
◆http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/edahigashi1/

夏休み号

52ヘルツ

学校長　熊谷　潤平

昨年度に引き続き、本校は、小学校全授業時数のおよそ4分の1を占める国語科に重点をかけ、授業力向上に取り組んでいます。先日7月16日には、6年２組と5年１組で研究授業を行い、読書の幅を広げ、自分の考えをも広げていくための手立てについて協議しました。

この日の授業に至る過程で、一人の児童が書いた文に目が行きました。その児童は、「52ヘルツのクジラたち」という本を推薦していました。いわく、「もしもこれが自分だったら…と考える必要がなくて、気付いたらもう考えている！」とのこと。とても実感がこもっていて、物語の魅力に引き付けられ、夢中になって読んだことが伝わってきます。言葉が生きている。

さて、この「52ヘルツのクジラたち」―。

多くのクジラは、15～25ヘルツ程度の周波数で鳴き、他のクジラと関係形成をしたり、群れを作ったりするそうです。しかし、中には52ヘルツという、他の仲間には感じてもらえない周波数で鳴く、「世界一孤独なクジラ」と呼ばれるクジラがいるのだそうです。

52ヘルツ…。決して聞こえない、聞いてもらえない声。聞いてもらえないのに発し続ける声。

いや、待てよ。クジラだけじゃない。きっと、我が荏田東第一小の子どもたちの心の内にも、「52ヘルツの声」はあるぞ。

たくさんの子が、元気に笑顔で挨拶と会釈をするけれど、対照的に、一言も発せず、発さず、うつむいて歩く心の内。

ほとんどの子は、きちんと座って話を聞いている中で、どうしてもじっとしていられず、教室にいられず、飛び出してしまう心の内。

周りの友達が笑っているから、自分も笑ってはみたものの、本当は楽しくもないしうれしくもない心の内。

先生や親に、本音を言えばきっと怒られるに決まっているから、黙っているしかない心の内。

そう。誰だって、子どもだって大人だって、「52ヘルツの声」は発している。本当は気付いてほしいけれど、決して聞こえない周波数で。

きっとたくさんの子どもたちが楽しみにし、大好きなのがこの夏休みではありますが、残念ながら、一年の中で、子どもたちが最も不安になり、孤独を感じ、多くの不幸が起きてしまうのは、この夏休み明けです。なんとか、子どもたちの「52ヘルツの声」さえも聴いてあげられる、魔法の耳を持った学校や家庭でありたいと思います。そしてコロナ禍であっても、いえ、コロナ禍だからこそ、この夏休みを、一生心に残るようなすてきな夏休みにしてほしいと切に願います。

コロナ禍ゆえに、様々な工夫をした夏休みの過ごし方になることと思います。もし、遠いどこかへ行かなかったとしても、豊かな経験をし、すてきな思い出を創る力が子どもたちにはあります。この夏休みを、本当に豊かな経験・すてきな思い出とは何か、考えるよい機会にも、してほしいと思います。

「えだわん」の皆さん。どうかすばらしい夏休みを。思い出に残る夏休みを。休み明け、すてきな表情で、お話を聞かせてくれるのを楽しみにしています。

「えだわん」の子が育てた朝顔